



Bossa@NILO

-Ipanema- NILO Koizumi

Bossa@NILO～Ipanema～ 小泉ニロ

タウンユースにカスタマイズした、 自転車とボッサの関係とは？

OL生活の中でブラジル音楽に触発され、思い切ってジェットに乗り込み、リオに降り立った女子バックパッカー。太陽の光が輝き、リズムとハーモニーが溢れる街の中でこの道を歩く事を彼女は決意した。

ボサノバシンガー小泉ニロ。北海道出身、大阪在住。ブラジル音楽をライフワーク的な嗜みとしてではなく、メジャーレーベルのアーティストとしてアグレッシブに取組んだのが彼女の選択。1stはiTunes Storeワールド部門では1位を獲得、シーンに新鮮な風を吹き込んだ。そして、2ndとなる本作では、ボッサの基本に立ち戻った仕上がりを見せる。「シンコペーションや2拍子の

感覚など、伝統的なボッサの基本をベースにサウンドを固め、その上でブラックっぽさやアソビの要素を取り入れて若々しさを盛り込んだ」と小泉ニロ。

一方、オフステージでは自転車をテーマにしたフリーマガジン「ふたつの輪」の編集長としての顔も持つ。油小路の京都サイクリングツアープロジェクトを紹介するなど、読み応えある紙面を構成。ボッサの豊穡な世界、そしてオフステージでの彼女の暮らしの空気感が心地よく混在。我々の暮らしと世界観にカスタマイズされたボッサがここに誕生だ。

(桜井一哉)



イベント・ライブ・演劇に映画、
CDリリースから書評に至るまで、
骨本entertainmentを丸飲み!

RELEASE

6.4
(Wed)



■「Bossa@NILO～Ipanema～」小泉ニロ
■GIZA studio GZCA-5132
■2800円
■<http://koizumi-nilo.jp/>

街場

肩の力を抜いて、自由に語ろう...、
京の街と付き合うということ。

演算

保伊戸宵
(ほいとよ)

〔第10回〕

河原町の変わり様を横目に
温故革新を地でいく土地、
それが京セントラルであることを
見のがすな。

今年東山から吹き付ける寒風によって雪景色を街なかでも楽しむことが出来た。そんな年は冬の厳しさとともに、春の霞がまた美しいものだった。きつと来る夏も「京の夏」らしいものになるのだろう。

そう思うと、決して甘い物は得意なほうではないが、なぜか氷、それもフルコースの「宇治白玉ミルク金時」最近やたらとファストフード店でメガ云々なるメニューが話題だが、でかいことよりもやはり何がどう入っているかが重要だ。が食べたいたと、梅雨に入る前からそんな気分である。そう思った先に頭の中ではどこで食べようか? 「やっぱり『梅園』かなあ」と思う町衆の自分がいる。

「梅園」と考えてまた、ふと思ったんだけど、ミーナが出来て、どんだん謎のストリートとなっていく河原町三条〜四条界限。が、映画館などとセットで大型店舗が出来たことは、それはそれでいいんじゃないかとも思う。ロンドンに行っても、イスタンブールに行っても、パリやローマでもそうだけれど、目抜き通りの分かりやすいところにベネトンやgapやバナナ・リパブリックはあるしね。

分かりやすさは、難しさの反面として常に街の表層に現前するものである。「壺中堂」で文具を調達して「梅園」で水を楽しんだ後に、「サウナ・チェリー」へ行くまでに

原田郁子 ソロツアー2008 「ケモノと魔法がとびかうツアー 管と弦とバンド！」

LIVE

7.5
(Sat)



目に見えないけど確かにあるもの。 ケモノと魔法がとびかうの!?

風通しの良い、自由度の高いポップスを奏でる3ピース、クラムボンのヴォーカル/キーボードの原田郁子が、2ndソロアルバムを発表する。3月リリースのミニアルバム「気配と余韻」に続く今作には、蒼井優主演の映画「百万円と苦虫女」(7月公開)の主題歌「やわらかくてきもちいい風」の弾き語りバージョンも収録。初回限定盤は本とCDと一緒に買ったブックCDというコダワリようだ。

クラムボンにしてもソロにしても、彼女の音楽に包まれていると「心の琴線」というものの存在自体に気付かされるが多々ある。触れるんじゃないかと、手触りのあるものとして確かめられるというか。ライブではそれが一段とはっきりしてくるから、何気ない毎日のなかで見落としている大切なものを再確認できるのだろう。穏やかに、自分と誰かの「大切」が絡まっていくのだ。(中谷琢弥)

- 原田郁子 ソロツアー2008「ケモノと魔法がとびかうツアー 管と弦とバンド！」
- 7.5 (Sat) ■ OPEN 17:30~ START 18:00~
- 前売り 5250円
- 京都会館第二ホール 京都市左京区岡崎最勝寺町13番地
- 問い合わせ 06-6357-4400 (サウンドクリエイター)
- ケモノと魔法/原田郁子
- COCP-34976 コロムビア 3675円 (初回限定盤)



ZAI ワンマンライブ「ZERO」

-Vol.1 in 京都-

LIVE

6.6
(Fri)

シンプルに心を揺さぶられる音楽、 これって案外難しいものです。

01年の結成以来、京都を中心に地道に活動し、昨年HAYU NOTEからリリースしたシングル「さい」をきっかけに加速度的に活動の場を広げてきたアコースティックユニット「ZAI」。弊誌の昨年11月号のインタビューで「好きだから音楽を続けられる。でも好きだけじゃ続けていけない部分もあって、コテンパンに批評されても自分たちにしか歌えない歌をやってこう」と語ってくれたように、音楽に対し

て純粹に向き合う彼らのワンマンライブが6月6日に都雅都雅で開催される。心に響く歌詞があって、良いメロディがあって…と、耳触りの良いような言葉だけど、ド真剣に正直に音楽を続けてきた彼らならではのソウルにぜひ一度、触れてみて欲しい。ちなみにVol.2は7月8日に神戸のチキンジョージにて。コチラは入場無料のフリーライブです。

(坂東寛士/本誌)

- 「ZAIワンマンライブ『ZERO』-Vol.1 in 京都-」 ■ 6.6 (Fri)
- OPEN 18:30 START 19:30 ■ 前売り 2000円 当日 2500円
- 都雅都雅
- 京都市下京区寺町通四條下ル カメラのナニワB1F
- 075-361-6900
- http://park20.wakwak.com/~togatoga/
- http://www.zai-kyoto.jp/

パンツや靴下を新調するところが出来たのはちょっと嬉しいかも(笑)。

話しはどんなスピンアウトしていくんだけれど、そんな河原町を全く雑誌やTVといったマスメディアが気にしなくなつて久しい。だからといって何かドラステックなことが今回の特集で取り上げられているようなエリアで起こっているか? といえはそうでもないこともこれまた事実である。

だが、京都市内で、いの一歩に自転車置き場が整備され、路上でタバコが吸えなくなつた、特集で取り上げたこのエリアこそが、観光客はもちろんのこと、京都とコミットメントする多くの人々によって支えられていることを見のがしてはいけない。誰が言ったか知らないが「ああ泊まりたや、炭屋、俵屋、終屋」はこのエリアにあるし、京都の人はあまり好きではないようだが、秀吉が作った堺町、寺町はまさにマレ人が京へやってくる導線である。

伝統や格式などに裏打ちされた多くの粋が、外界と混じり合うことで、今風にいえばケミストリー効果が生まれる場所がこの京セントラルというエリアなのではないだろうか。

気恥ずかしい気もするが、現代風の手ぬぐいや和柄シャツ、足袋に扇に…とあらゆるものが時代を超えて受け入れられているが、そんな数々の品のパイロットショップの多くは(とういうかほとんど)が、このエリアにある。いや、それだけでない。祇園にあつては当たり前かもしれないような、オーセンティックという洒落しているとか、そんなバーが軒を連ねている。

そして最後に、この編集部は六角堂の東隣、京のセントラルに存在し、昭和の頃から粋な街の息吹を活字にしてきた。まもなく300号である。

保伊戸曾(ほいと・よい)フリーエディター、コピーライター、葵祭も終わって、祇園祭が待ち遠しい今日この頃、観光客を尻目に街場のええ店巡りと言いたいところだが、どうも最近乙女系なカフェや和菓子の店が気になつてしまうが。